



## 「山積み芋」の謎を解け!

市立博物館では、今年3月の発刊に向け、宜野湾市史「伊佐浜の土地闘争」(ビジュアル版)の編集を進めています。今回は、伊佐浜土地接収の頃(1955年7月)にその周辺で撮られた二枚の写真を紹介します。

写真①は「山積み芋」。強制接収後、伊佐浜住民が大山小学校での仮住まいを始めた頃にそこで撮られたものと思われませんが、この芋はどこから出てきたのか? 琉球政府が仮住まいの住民のために米や魚缶などを支給したとはありますが、芋のことは書かれていません。



▲写真① 山積み芋  
1955年7月19日前後。家を接収された伊佐浜住民が仮住まいする大山小学校

をしているのか? が不明でした。この二つの謎を解くカギが、当時の新聞記事の中にありました。

「部落民は立退いたが植えつけた芋を堀りに20名位の若い男女が柵内に入り、ブルの埋め立てと併行して作業をつづけ、植えつけたの小さい芋を片っ端からとり出し」(「沖縄タイムス」55年7月21日)とあり、また「伊佐浜部落民で接収地に芋畑を持つ農家は、芋掘りに出ようとしたが鎌を持って入ることは許されず、手ぶらで入って芋をかついでくる状態だった」(「沖縄タイムス」55年7月20日)という記述もあります。これは、土地を強制接収された伊佐浜の人びとが、自分の畑に素手で芋掘りに行っている様子と、そこで掘り起こされた芋の山ということではないかと、記事と写真がつながって謎が少し解けてきました。これらの写真について事情をご存じな方は、ぜひ一報ください。

「伊佐浜の土地闘争」は「資料編」に続き、写真や地図などを使った「ビジュアル版」(価格未定)が近日発売。乞うご期待!

(大城博美)

【問い合わせ先】  
市立博物館

☎070-9317

▼写真②  
畑で何かをする人たち  
1955年7月19日前後。土地を接収された伊佐浜住民が畑で芋を掘る姿と思われる



## はくぶつかんの部屋

57

宜野湾市の歴史や文化などを紹介します。



## コロナ禍での市立博物館の活動



今年度も残り数週間となりましたが、新型コロナウイルスの脅威は今も続き、この一年で私たちの生活も大きく変化したと思います。当館も緊急事態宣言による休館、企画展やイベントの一部を中止したほか、人数制限を設けて規模を縮小するなど、感染予防対策をした上で、執り行ってきました。今後もコロナ禍が続くことが予想される中で、どのように展示を公開していくかが当館の課題となっています。

そこで当館では、実験的に当館のホームページ上で企画展の内容を公開するWEBパネル展を、地域との共同企画展「ぎのわんの字」展に合わせてアップしました。これは感染症のリスクを心配されている方、お身体が不自由な方、忙しくてなかなか博物館に来られない方などに、企画展の一部を文章や写真を中心にWEB上で公開するものです。今回のWEBパネル展は、300人余りの方が閲覧してくださり、企画展には1500人以上のお客様にご参観いただきました。この場を借りて、お礼を申し上げます。WEBパネル展については、今後周知を図り、コロナ禍の状況でも、多くの方に博物館

の展示をご覧いただけるように努めてまいります。

新型コロナウイルスによりさまざまな制限を求められる中でも、博物館はWEBパネル展といった新しい試みと、最大限の感染予防対策によって、皆さまに宜野湾市の歴史や文化を「安心して学べる場」を提供していきたいと思えます。

なお、今年度中止となった企画展や、一部のイベントは、令和3年度の実施を計画しておりますので、是非、今後の博物館の活動をチェックしていただければと思います。

【問合せ】市立博物館 ☎070-9317



▲体験展示の感染予防対策  
消毒液を設置し、安心して参観体験できるようにしました



宜野湾市立博物館  
ホームページはこちらから